

水 トラスト ニュース

Oct . 2005 vol . 13

contents

木曾川流域共生マップ 掲載情報No.1	…1
「大豆畑トラスト夏祭り」	…3
鋸谷式間伐体験記	…5
素人のための林業体験塾	…7
2005年度通常総会報告	…8

『木曾川流域共生マップ』 掲載情報No. 1



岐阜県恵那市

「川をこよなく愛する会」

岐阜県恵那市の市街地を東西に二分するように北流する阿木川。中津川市の天狗森山を源とし、大井ダム直下で木曾川と合流する。木曾川の支流としては比較的大きな河川で、中流には愛知用水の水がめでもある阿木川ダムがある。かつては水泳や釣りなど子供達が川と親しむ光景がそここで見られたが、工場廃水やダムの建設で川と人との素朴な関係が遠のいた。この阿木川を次の世代に美しい流れで残していきたいと、7年前恵那市民を中心に「川をこよなく愛する会」が結成された。この代表を務める山本勝明さんと会計の藤健一さんのお二人に話をうかがった。

「川をこよなく愛する会」の会員は38名、団体を含めると100名をこえる。発足当初、多くの人たちに参加を呼びかけたが参加はごく一部、しかし7年の活動の中で会員は着実に増え定着した。恵那市民以外に

もお隣の中津川市や遠くは愛知県の会員もいるという。

主な活動は、鯉の放流や川岸での花の植栽、川の清掃、灯明の設置や河川いっぴいに鯉職の掲揚を行なう。「まずは、市民のみなさんに川を見てもらいたい」。しかし、活動はこれにとどまらない。阿木川周辺には王子、東栄、大井の3つの製紙会社がある。工場からは、絶えず川に汚水が注がれる。

「産廃を液体にして流しているだけだ」。警察とともに工場へ立入り、幾度となく工場に対し申し入れを行なった。その甲斐あつてか廃水は以前と比べれば改善された。山本さんはこうも付け加える。「水質の検査は必要なことだがそれだけでは川はきれいにはならない。机上の考えではだめなんです」と力説された。「まずは、阿木川を見てきれいだと思いう水準までもっていくことです」。

「川をこよなく愛する会」の活動テーマは、「美しい川の流れを次の世代へ」。まずは、美しい阿木川が実現し、市民のみなさんの目を楽しませる。そして、美しい



川を子供たちに伝えていくこと。川への想いについての講演活動を小学校で行なったり、子供たちの手による鯉の放流など活動に暇がない。初めは、鯉を購入する資金も

100円募金で市民から集めた。また、美しい川の流れは下流域の人たちにきれいな生活用水を供給するためにも大切なことだとも述べられた。今後の活動は、阿木川にとどまらない。「支流の永田川や木曾川を含め、川をこよなく愛する会なんです」。山本さんの言葉に力がこもった。

山本さんは、阿木川河畔で料理屋を営むかたわら川を守る活動に取り組んでいる。店の前からは阿木川を一望できる。ちょうど今(5月下旬)は河畔にオオキンケイギクが咲き、鯉が泳ぐ景色が清々しい。店内にはイワナが泳ぐ水槽も。本当に川が好きで川を愛する人なのだろう。

「余談ですが」と山本さんにひとつ尋ねてみた。「警察同伴で工場立入りするテクニクは?」。「そんなことは簡単です。十円玉一つあればできますよ。悪臭や汚水がひどいと住民から苦情が上がってきています」と電話することです。山本さんは淡々と語った。

取材者：木亦 信之(きまたのぶゆき)

水トラスト事務局)

大豆畑トラスト恒例の夏祭りが
7月30〜31日、岐阜県加茂郡白川
町で開催された。以下は、そのし
ポート

老若男女60余名、黒川の東座
に集合、犬山より初参加3名、
雨の予報は見事に外れ、企画さ
れていたイベントは、滞りなく
進行。小屋のすぐ脇には幅40メ
ートル程の黒川の清流？が大小
の岩石やマコモ等の草類の間を
縫ってザワザワと流れる。流れ
の一部を塞ぎ止め6尾のアマゴ
を放流。大人も子供も喚声を上
げて、ヌルヌルの魚に悪戦苦闘。
流れを見下ろす石垣の上は広い
公園になっていて、樗の大木が
枝葉をいっぱい繁らせ、アブ
ラ蟬の大合唱が頭上に降りそそ
ぐ。見物する大人達も声張り上
げて音頭取り。

大豆畑トラスト夏祭り

谷本 常子

苦労話など聞きな
がら、何を食べて
も、美味しい！美
味しい！食べる！食
べる！モリモリ食べ
る！
そんな情景眺めなが
ら、食べる事の出来
る平和をしみじみ
幸せだナ！改めて感
謝。
夜は小屋の棧敷に
三々五々と陣取り、「私達の水
源は今どうなっているのか」と
のテーマでフィールドワーカー
の安藤直彦氏の講話を傍聴。ス
ライドを拝見しながら詳しく説
明を受け、興味津々、貴重なお
話ではあったが……。聞く程に、
識る程に不安が募るばかり。
先ずは、山林の崩壊の原因。そ
れは自国の材木が使われなく
なつた事。四十年前まではほぼ
百パーセント自給していたも
のが現状は二十パーセント程に
激減。様々な事情で林業に携わ
る人材の不足。この様な事態を
放置しておいて京都議定書を取
り上げてみても意味がない。輸
入材使用の“集成材” プレカッ
ト”。初めて耳にし、識ってび
っくりの単語である。ノミやカ
ンナを用いずに、○○ホーム、
△△ハウス、見かけきらびやか
な住宅が増えつつある(さぞや、
大量の接着剤が使用されている
のだろう、と想像)。

小屋の内外ではパ
ーティーの準備に生
産者の皆さんは大わ
らわ。そうめんを茹
でる大鍋の火の番は
宮澤氏。顔面真赤汗
みづく！若竹の樋を
勢い良く流れ下る麵
を幼い子達も上手に
採っては夢中でほう
ばっている。
強いガスバーナを使
つての大ぶりの鉄板の上、安全
ポーク、南瓜、丸ごと茹でる。
じゃが芋、生産者の皆さんが持
ち寄って、畑のビタミンがダイ
ナミックに焼かれ好い香りが食
欲を誘う。筍の粕漬けが珍しく、
作者の方より教えを乞う。「一
品増えたヨ、私の漬物レパート
リー」
自然と対話しながらの耕作の

こつこつと腕を研いだ大工さん
は絶滅危惧種になりつつあるの
か。いや、一方、国産の材を遣
い百年経ても住める住居をと取
り組んでいる職人さんも少数で
はあるが健在との事。



翌日は黒川の展示林の見学。

「森は海の恋人」を合言葉に矢作川の水で生活をしているという仲間が水源でもある森に照葉樹を植林する運動を始めている、と自己紹介あり。小さな運動でも気づいた人、一人一人が方々で立ち上がって行動を起こせば、やがては大きな運動につながり、森は徐々に蘇える。川には水が流れ、土砂災害も減少する。全てが手遅れになる一歩手前まで来ているのだから…。

西丸震哉（食生態学者）の書かれたものに「食糧危機、人口問題、食品添加物、汚染物質、戦場の弾丸の如く飛び交う電磁波…人体にどのような影響があるのか。人類存亡の危機が迫っている。国民の生命、財産を守るべき政治家は、聞く耳を持たない。」

四十一歳寿命説を唱え、現代のありように警鐘を鳴らし続けているの

だ。

せめて森を育てよう。植物には二酸化炭素を吸収同化する能力を持っている。と一九九八年、岡山大学の調査に詳しい。上は大木から下は足元のカタバミ、スベリヒユに至る迄、全ての植物のお陰できれいな空気の中で生かされている事を識る。

夏祭り、一泊二日の好き出合い、ふれ合いに感謝。

（たにもとつねこふるさとの自然を守るスズサイコの会）



9月10日豊田市足助の私有林で行なわれた実地研修に参加した。鋸谷式間伐が実践的にも合理的で簡便にマニュアル化された方法であると実感できた。

①伐倒木の伐置き：「鋸谷式間伐実施林」の看板が立つ最下部から幅30m奥行40mほど昨年度間伐が実施されている。最下部にはスギの伐倒木が無造作に伐置きされていて歩きにくい。従来のように枝払い・玉切り・横積みはしない。伐置きは後処理作業軽減だけでなく、鹿やカモシカなどの大型獣侵入防止や下層植生の貧弱な過密林で表土流出を防ぐ効果があるという。

②巻枯らし：伐置き現場から上部はヒノキ林となっているが、スギ林に比べ木が間引かれた様子がない。その代わり赤テープが巻かれた木が点在し、無印のものは地際から木肌が剥がされているのが目に付く。赤テープは間伐で残す(残された)木の印で、無印は間伐対象木である。樹冠を見上げると表皮の剥がされた木は緑葉を失っており立ち枯れていることがわかる。

地際から表皮を剥がすのは鋸谷式間伐で

ボランティア向きの間伐法 鋸谷式間伐体験記

喜多 岳史



形状比80以上の過密林(「ほとんど」の放置人工林)で実施される「巻枯らし」という方法である。形状比80以上の林分で伐倒による50㎡/ha密度間伐を行なうと残存木が風雪害に耐えられなくなる恐れがあるという。また、「掛かり木」(「伐倒木が近隣の

立木に引つ掛かってしまう)が避けられない。

こうした所では、間伐対象木を立ち枯らしさせ風雪時に残存木の支えとする。はっきりいって巻枯らし実施林の見栄えは悪い。また、巻枯らしでは立木が完全に枯れるのに1〜2年かかるので、伐倒間伐に比べ育成木と競合する木を間引く効果が表れるまで多少時間がかかるのも事実だ。しかし、倒れるまでのおよそ10年間は、風雪時に育成木を支える役割を果たすことができるし、掛かり木処理に伴う時間・労力・危険からも解放される。こうした点で鋸谷式間伐は、「花より団子」の合理的間伐法だといえる。

③用意する道具：基本的に「密度管理竿」と「直径巻尺」、「目印テープ」、「のこぎり」、「ナタ」だけがいい。密度管理竿は、形状比算出に必要な樹高と林分密度を測るのに使う。鋸谷さんは山での使い勝手から4m以上の伸縮式の硬い釣竿を使用している。直径巻尺は胸高の幹を一周巻くと胸高直径が読み取れる便利なもの。通常1mmの目盛が3・14mmごとに刻んである。

実際にはまず、間伐範囲にある木々を見渡し、平均的な太さと思われる木の胸高直径を測る。密度管理竿を木に沿わせておおよその樹高を割り出す。平均木の形状比を計算し、伐倒か巻枯らしかを選定する。胸高直径から胸高断面積も求める。

間伐の目標密度数値はha当りになっているが、一度に密度計測できる面積は限られているので、これを小割する。その基準単位が密度管理竿を一周させてできる半径4mの円の面積(≒約50㎡)。1haの200分の1だ。これらの数値から、半径4m円内の残木数が割り出せる(例えば、胸高直径20cmの林分では、ha当りの残木数は1592本だったからこれを200で除した数値(≒8)が半径4m円内の残木数となる。

次に、平均的な木を1本選びこれを中心に密度管理竿を回し、できるだけ丈夫な木を7本選木し目印の赤テープを巻く。残りの木(≒間伐対

象木)は形状比を目安に伐倒するか巻枯らしを実施する。巻枯らしの場合、早く立ち枯らすには地際から1m高さまでぐるりと一周表皮のすぐ下の形成層まで剥がすとよい。2年かけていいなら5cm幅で一周同様に剥がせばいい。

ここで必要な数値は胸高直径と残木数に対応させた簡易表に記されており、現場で簡便に割り出すことができるようマニュアル化されている。こうしたところが、安全かつ省力化された作業を可能とし山仕事素人でもすぐ取り組める鋸谷式間伐の特徴だ。

これまで水源の森・みたけと周囲の人工林で実施してきた間伐は、丸太小屋作りの材料とするため切り出してきたが、小屋作りも一段落した。今後は、間伐面積を増やしていくために鋸谷式間伐をぜひ取り入れていきたいと思う。

(きたたけし水トラスト事務局)



11月12日(土)

参加者募集!

素人のための林業体験塾



木曽川水トラストでは、市民参加による流域の森づくりボランティア活性化をめざしてこのたび「素人のための林業体験塾」を開催することにしました。素人でもできる作業(チェーンソー、ナタ、ノコギリによる間伐・枝打ち)やきのこと狩りなど山ならではの体験をつうじ、荒廃する山林に手を入れる山仕事の重要性、大変さとともに、充実感と楽しさへの理解を深めていきたいと考えています。多くのみなさまの参加をお待ちしています。

- 日時：2005年11月12日(土) 10:00～17:00 10時御嵩町中公民館集合
- 場所：御嵩町大久後 水源の森・みたけおよび周辺の山林
- 内容：午前中(1)山仕事に関する講義、(2)山仕事パート1 間伐
昼食 主催者できのこと汁などを用意します
午後 参加者の希望に応じ、散策、間伐・枝打ち、きのこと狩り、ハンモック体験
- 参加費：300円
- 参加定員：15人
- 持ち物：長袖・長ズボン・帽子・軍手・丈夫な靴(安全靴・ハイキングシューズ・長靴など)
・タオル・水筒・昼食(主食のみ) ナタ・ノコギリをお持ちの方は持参してください。スズメバチは黒い色に反応するので服装は明るい色のものがよい。
- 申込方法：ファックス・電子メールでお申込ください。
FAX：052-682-4737(名古屋働く人の家)、052-779-4291(事務局 大沼)
e-mail:bovin-kita@nifty.com(事務局 喜多)、nw4j-oonm@asahi-net.or.jp(事務局 大沼)

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト
2005年度通常総会報告（一部抜粋）

2005年6月12日（日）午後より名古屋働く人の家で、2005年度通常総会が開催されました。2004年度事業報告・決算報告、2005年度事業計画・予算の4つの議案について説明・討議を経て、すべて承認されましたので報告いたします。総会后、御嵩町から田中 保さんをお招きして、御嵩町の現状、新知事となった県との関係、下流域住民との関わり、町有林整備、ポスト柳川町長などお話いただきました。

以下は、当日の資料一部抜粋です（その他は別に添付しました）。

2005年事業計画書

（2005年4月1日から2006年3月31日まで）

1 事業の実施に関する事項

（1） 特定非営利活動に係わる事業

ア 水源林保護育成事業「水源の森」における活動

2005年4月16日 「春を食べようよ」と題して、食べられる山野草の採取、観察、調理法の紹介。森の散策と椎茸の採取

5月14日 散策道整備

6月11日 同上

7月9日 同上

9月10日 小屋壁大作業

10月8日 同上

11月12日 「素人のための林業体験塾」～木とのふれあい～

間伐、枝打ちの作業の体験、丸太を使った椅子や花台づくり、きのこ狩りなど

12月10日 間伐と運搬

2006年1月14日 間伐と運搬、新年会

2月11日 枝打ち、（杉、桧林の作業）

3月11日 椎茸菌打ち

イ 水源地域環境保全のための政策提言事業

「木曾川流域マップ」作成作業

木曾川流域で水源林を始めとする自然環境の保全や流域に根ざした暮らしを目指す人々の様々な活動を紹介し、幅広く流域の人々の交流の場の提供や情報提供に資するために、「木曾川流域マップ」作りに取り組む。

本年の計画：現在すでに交流のあるグループ等へ協力を要請し、ネットワークを拡大して情報収集のための取材を行う。

ウ 環境保全啓発事業 「水トラストニュース」第13号、14号、15号発行

●事務局だよ

◇事務局定例会のお知らせ

昨秋より不定期開催だった事務局会議を月例化しました。毎月第4火曜日に働く人の家で19時30分より開催です。

水トラスト発足当初はシンポジウムや森開きイベント主催、NPO法人化など精力的な取り組みを実現してきましたが、このところ様々出されるアイデアを具体化するパワーが低下しがちでした。森の作業は月例化し継続されてきましたのでこれにない事務局会議も月例化し、パワーアップをはかりたいと考えています。

◇流域マップ掲載情報を募集します

流域情報第1号「川をこよなく愛する会」を掲載しました。ホームページにも掲載して

います。

情報収集は基本的に事務局メンバーの取材により行ないます。流域のユニークな話題がありましたら取材に出向きますので、ぜひ事務局までお知らせください。

◇水源の森・みたけに来ませんか

定例作業日：毎月第2土曜日

午前10時

御嵩町中公民館集合

名鉄広見線御嵩口駅東徒歩数分

小雨決行

持ち物

：長袖、長ズボン、帽子、軍手、タオル、山歩きのできる靴、昼食、水筒

※森には飲料水、トイレがありません。

連絡先 中村 0574

(64) 0216

大沼 052

(779) 4291

水トラストニュース13号 2005年10月発行

特定非営利活動法人NPO

みたけ・500万人の木曽川水トラスト

〒456-0034

名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL&FAX 052-682-4737

郵便振替 00800-9-64810

URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>